



校歌

作詞 寺田 彰司
曲 旧制一高寮歌
「アムール川」

一 千秋の雪積もりたる
富士の高嶺の雄姿ぞ
幾万代の後までも
変わらぬ誠の鑑なる

二 奔流百里石をかみ
巖に激しいや増しに
勢加わる利根の水
これ剛健のためしなり

三 あ、此の山と此の川と
日夕眺むる健男児
自然の示す巨人をば
如何に学ばん習わなん

四 白幡台の雪月花
四季の折々常総の
平野にしるく輝くは
高潔無垢の別天地

五 石段登る六十余
一足ごとに踏みかため
心を鍛え身を練りて
忠良有為の基たてん

染谷信洋会長挨拶



宮嶋宏幸氏講演



校旗退場



吹奏楽部演奏



編集後記	24	目次	
定時制ケータイ安全教室	24	会長挨拶	2
部活動状況	22	校長挨拶	2
附属中学校開校	20	令和2年度総会報告	3
進路状況	19	令和3年度総会案内	4
同窓会HP紹介	18	百二十年周年記念式典	5
トピック④⑤	17	百二十年周年記念事業	6
トピック③	16	百二十年周年記念事業報告	7
トピック①②	15	母校の想い出	8
母校と私の人生	13	トピック①	15
		トピック②	15

ご挨拶



白幡同窓会会長
染谷 信洋

白幡同窓会会員の皆様にはご健勝にて活躍のこととお喜び申し上げます。日頃本会並びに母校の充実発展のために深いご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

本年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、通常の総会を開催することができませんでしたが、実に残念なことでありましたが、代わって出席予定の皆さんには文書をお送りして議案を検討していただくという異例の対応をとらせていただきました。皆さんには快く応じていただきました。あらためて厚く御礼を申し上げます。

このような状況下、われらが母校竜ヶ崎一高に附属中学が開設されるという画期的な出来事がありました。

本来なら大々的に歓迎して今後の活躍に期待を込めてエールを送りたかったのですが、それもかきませんでし

た。あらためて、この紙面上より中学生の皆さんにエールを送ります。第1回生としてのプライドを持ち、チャレンジ精神を発揮して大いにがんばってください。

羽成邦男校長先生のご退職され、あらたに赴任された川村始子校長先生を

はじめ、太田垣淳一副校長先生、高野健二教頭先生、佐藤真教頭先生、菊地耕附属中教頭先生、野口範正事務室長さんや職員の方皆さんも新年度早々たいへんな事態に直面されたわけですが、実に適切に対応していただきました。転出された椎名健司教頭先生や宇佐美福美事務室長さんには創立百二十周年記念事業に向けてたいへんご尽力をいただきました。感謝いたします。

在校生の皆さんも困難な状況のもと、実によくがんばってくれています。さすが竜ヶ崎一高の生徒諸君です。

文科省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)も第2次指定を受けてますます充実しているようで嬉しい限りです。

そして、秋には、竜ヶ崎一高創立百二十周年記念を迎えるという慶事がありました。これもコロナ対策として、規模を変更縮小して行わざるを得ないという苦渋の決断を迫られました。学校側で臨機応変、しっかりと対応準備をしていただきました。御礼を申し上げます。心からご慰労申し上げます。

記念式典では、前ビックカメラ社長の宮嶋宏幸氏に講演をお願いしました。氏は羽成邦男校長先生の同級生で、一緒に池袋の本社ビルを訪れて依頼したところ、多忙にもかかわらず快諾してくれました。この場を借りて、あらためて厚く御礼を申し上げます。在校生の皆さんも実業界で活躍している先輩の話は大きな刺激になったこと確信しています。

母校の120年の歴史に思いを致すとき、胸に熱いものを覚えます。私のみならず皆さんも同様と拝察いたします。先輩方が営々と築いてくれた文武両道の実績、足跡にただただ感謝あのみです。

そして私たちもこの歴史と伝統を引き継いで、後輩諸君に継承していくことをあらためてお誓いする次第です。今年と同窓会有志が参加していた白龍祭もコロナのために実施されませんでした。イベントがあつて、同窓会も参加して在校生の皆さんに白幡同窓会の存在をアピールしたかったのですが残念でした。

今年度は東京2020オリンピック・パラリンピックもコロナ禍の影響で延期になってしまいました。

高校野球はセンバツ大会も夏の甲子園大会も開催されませんでした。センバツを決めていた球児たちが、変則的ではありましたが、甲子園の土を踏めたことがせめてもの救いでした。

今秋の茨城県大会は全くの無観客で保護者も学校関係者も入れませんでした。

2020年というこの年は記録にも記憶にも残る異例づくめの年になりました。

それでも私たちはがんばって前進していきたい、そう思います。明けない夜はない、という言葉を通じて来年に向かつて役員一同心してまいります。どうぞよろしくお祈りをいたします。

皆さんにとって、来年こそはよい年になるようお祈りします。

ご挨拶



校長
川村 始子

白幡同窓会会員の皆様には、染谷信洋会長をはじめと本校の教育活動に對しまして格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度校長を仰せつかりました高校三十三回生の川村始子です。どうぞよろしくお祈りいたします。

今年度本校は創立百二十周年を迎え、御陰様をもちまして十月三十一日に記念式典を挙行することが出来ました。数年前から同窓会・PTA・学校による創立百二十周年記念事業実行委員会を設置して準備を進めて参りました。コロナ禍により実行委員・生徒・教職員での実施となりましたが、厳かに過去の歴史・伝統を顧み、未来に向けて大きく羽ばたく竜一高の姿を再認識することが出来たと考えています。

時を同じくして今年四月に附属中学校が開校し、第一回生四十名が入学しました。この附属中学校は、県立高等学校改革プランにより、豊かな人間性と新たな価値を創造する起業家精神を兼ね備えた地域のリーダーや、世界に飛び立つ人材の育成を目指して誕生した県立中学校です。開校によって本校は、併設型中高一貫教育校として新た

な歴史を刻むことになりました。一方、創立以来の「文武両道」は高次元で実現されており、令和二年度入試においては、県内屈指の進学校の期待に違わず、旧帝大難関国立大学受験者の現役合格率が7割という数字をはじめとして、国立立大学へ118名、私立立大学では、早稲田大学19名をはじめとし674名の合格を出しました。飛龍館には、大学合格を目指す三年生の真剣な姿が絶えず見られ、今後にも期待が高まります。

平成二十六年度から指定を受けた「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」も、現在二期目の二年目になり、「問う力」を共通指針とした「たくましい科学系人材」の育成へと進化しています。授業の中で育成したい資質能力の総称として「問う力」を置き、探究活動を学校の教育活動全体で実施し、知識や技能を活用し深い学びを實現しています。

定時制においても、生活体験発表大会で茨城県議会議長賞を受賞する生徒がいる等、確かな歩みで個々の成長がみられています。

部活動においては、今年度は新型コロナウイルス感染症防止のために各種大会が中止になりました。秋の大会から感染防止対策を施しながら徐々に大会が行われ、伝統の野球部が県大会に進み、射撃部が関東高校選抜大会出場を果たした事を皮切りに朗報が届くと思われま

す。これからも本校は、校訓「誠実・剛

健・高潔・協和のもと、創立以来の「文武両道」の気風を継承し、社会に貢献しうる有為な人材の育成に向けて、弛まぬ努力を続ける所存であります。結びになりませんが、白幡同窓会の皆様には、今後とも本校の教育活動に御支援御協力を頂くとともに、皆様の御多幸と御活躍を祈念申し上げて挨拶と致します。

ご挨拶



副校長 太田垣 淳一

はじめまして。副校長の太田垣です。私は大学で教員免許を取得した後、いくつかの外資系企業でデジタル化をはじめとしたイノベーション推進を牽引しつつ、組織開発や社会貢献活動を通じて教育への関心を温めてまいりました。学校法人における新校開設等を経て、このたび公募選考により本校に着任しました次第です。新型コロナウイルスに言及するまでもなく、国際社会は近年、流動化の色を増しています。未来の人財を育てる学校も、この流れと無縁ではいられません。120年の伝統ある本校の教育を、21世紀のさらなる高みに押し上げるため、鋭意汗して参る所存です。ご支援のほどどうぞよろしくお願い致します。

総会報告

令和2年度の白幡同窓会総会は4月4日の開催に向けて準備を進めてまいりましたが、残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、3月22日の役員会で、総会を中止することが決まりました。

本部役員・校外幹事以外の、総会出席を予定されていた79名の皆様には総会資料を郵送し、次の審議事項についてご検討いただき、42名の皆様から回答をいただきました。

- 1 平成31年度 事業報告 について
 - 2 平成31年度 決算書について
 - 3 令和2年度 事業計画 (案) について
 - 4 令和2年度 予算書 (案) について
- 審議事項につきましては全て、承認をいただきました。ご審議ありがとうございました。

- 【本部役員】
- 顧問 野口武太郎 (中40)
 - 齋藤 佳郎 (高8)
 - 横須賀英明 (高10)
 - 会長 染谷 信洋 (高15)

- 副会長 小倉 培夫 (高20)
- 監事 関口 広行 (高26)
- 倉持 正男 (高27)
- 大和佐知雄 (高28)
- 山田 保 實 (高33)
- 有川 實 (高26)

- 副幹事長 木野内昭治 (高13)
- 幹事 服部 俊夫 (高25)
- 櫻井 篤美 (高29)
- 篠塚 文男 (高28)
- 横田 久 (高28)
- 川口 浩己 (高29)
- 赤塚 誠 (高30)
- 大野 雅之 (高30)
- 大野 雅彦 (高31)

- 小嶋 吉浩 (高31)
- 福田 道義 (高31)
- 本田 仁子 (高31)
- 宮本 順紀 (高32)
- 霜村 裕通 (高33)
- 磯山 佳美 (高34)
- 海田磨起代 (高36)
- 具志堅秀和 (定56)

平成31年度白幡同窓会収支決算書

収入総額 10,771,675円 支出総額 4,835,001円 差引残額 5,936,674円 (次年度へ繰越) (単位:円)

科目	本年度予算額	本年度決算額	比較		摘要
			増	減	
1 繰越金	5,620,134	5,620,134			平成30年度より繰越 会計用 5,620,134円 常陽銀行(普)
2 入会金	1,764,000	1,746,000		18,000	全日制 6,000円×280名=1,680,000円 定時制 6,000円×(9+2)名=66,000円
3 協力金	3,000,000	3,330,000	330,000		ゆうちょ銀行扱い分 607件 1,328,000円 コンビニエンスストア入金分 996件 1,992,000円 学校へ持参 5件 10,000円
4 雑収入	5,866	75,541	69,675		高25回卒一同 50,000円 高37回卒一同 25,500円 普通預金利息 41円
合計	10,390,000	10,771,675	381,675		

科目	本年度予算額	本年度決算額	比較		摘要
			増	減	
1 事務費	970,000	901,139		68,861	
1 消耗品費	50,000	28,039		21,961	事務消耗品代等
2 支払手数料	200,000	282,000	82,000		サラト扱い(2.3.6締め扱い分)手数料 170,940円 郵便局支払手数料 110,180円 送金手数料 80円
3 印刷通信費	350,000	364,388	14,388		同窓会専用封筒印刷 総会案内用往復葉書・宛名ラベル代等
4 広報費	170,000	121,415		48,585	ホームページ用パソコン購入、運用諸費
5 旅費交通費	200,000	105,297		94,703	役員会交通費等
2 事業費	4,520,000	3,860,666		659,334	
1 総会費	150,000	128,262		21,738	総会経費補助
2 会報発行費	2,600,000	2,785,672	185,672		会報31号印刷代(868,457円) 会報郵送代(1,980,259円)
3 会議費	170,000	66,661		103,339	役員会等経費
4 招待学年記念品費	0	0			
5 卒業記念品費	200,000	161,505		38,495	卒業証書ファイル購入代
6 部活動奨励金等	900,000	580,000		320,000	※20,000円+5,000円×出場人数(10万円限度) 関東(陸上部、射撃部、ソフトテニス、水泳、吹奏楽弓道) 全国(射撃、ソフトテニス、書道)
7 学校行事補助	300,000	138,566		161,434	SSH関連事業経費、高大連携経費等
8 国際交流基金	200,000	0		200,000	
3 慶弔費	100,000	27,160		72,840	
4 基金積立金	0	0			
5 予備費	4,800,000	46,036		4,753,964	白龍祭参加経費
合計	10,390,000	4,835,001		5,554,999	

科目間の流用を認める
基金積立金(常陽銀行) 31年度末積立額 6,002,798
合計 6,002,798

上記のとおり報告いたします。
決算報告日 令和2年4月3日
次城県立竜ヶ崎第一高等学校 白幡同窓会長 染谷 信洋

監査書

平成31年度収支決算について、監査しましたところ証書類、通帳等すべてにおいて正確にして適正であることを認めます。
令和2年3月22日 監事 山田 實 @

令和3年度 同窓会総会のご案内

令和3年度 白幡同窓会 総会

- 1 日時 令和3年4月3日（土）午後1時 開会予定
- 2 場所 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 体育館

令和2年度の白幡同窓会総会並びに懇親会は新型コロナウイルス感染症対策のため、開催を中止いたしました。

令和3年度の総会については、4月3日（土）午後1時から竜一高体育館にて開催する予定です。新型コロナウイルス感染状況等により予定を変更することがありますことをあらかじめお断りしておきます。

今回ご案内の往復はがきを差し上げるのは、各卒業回の幹事の方々と、令和2年度の招待学年であった高校13回・23回・38回・53回・63回及び定時制9回・19回・34回・49回・59回と、令和3年度の招待学年である高校14回・24回・39回・54回・64回及び定時制10回・20回・35回・50回・60回の卒業生全員になります。

招待学年の出席者の方と70歳以上の出席者の方（1回限り）には、陶芸家・植竹敏氏（高27回）作製のオリジナル校章入りの「白萩釉鑄湯呑」を記念品として贈呈いたします。

なお、例年総会後に開催していましたが「懇親会」については、総会の実施形態と異なり飲食を伴う懇談になるため、新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止することにしましたのでご了承ください。

総会の開催につきましては、10月31日に実施した「創立120周年記念式典」の対応策を遵守しながら実施する予定です。なお、吹奏楽部や応援部（チアリーダー）の参加はありません。

同窓会総会中止の場合について

新型コロナウイルス感染症予防のため、総会を中止する場合は同窓会ホームページでお知らせします。

令和3年2月上旬開催予定の同窓会本部役員会で検討し、総合的に判断することになりますのでご了解ください。

なお、総会が中止の場合は各卒業回の幹事の方々と招待学年の同窓生全員にご案内しています往復はがきは送付いたしませんのでご了承ください。

百二十周年記念式典

令和二年十月三十一日 (土)、本校体育館にて「創立百二十周年記念式典」が挙行されました。残念ながらコロナ禍での実施となり、体育館には実行委員及び代表生徒のみの約百名に制限し、他の在校生は各教室にて、YouTubeのライブ配信での視聴という形をとることにになりました。ライブ配信をするにあたっては、テレビカメラやミキサーといった機器をはじめ、体育館からのLANケーブルの設置、各教室のパソコンやプロジェクターの準備と多くの手間と時間と資金もかかりましたが、今回の思い切った環境整備は今後の在校生達の学習環境整備に大いに役立つものであると思われま

す。当日は、式典に先立ち、記念事業報告並びに事業の一環として設置されました巨大スクリーンのお披露目があり、そのスクリーンを使い、代表生徒達に課題研究の中間発表をしてもらいました。「河川氾濫の避難勧告時における最適避難経路の提案」という研究テーマで、コロナ感染症の

後も母校の充実発展のために専心協力支援していく」とのメッセージが、校長挨拶では、「社会の変化に対応しながらも伝統は継承し生徒達の間を力を高めていく」との熱い想いが、PTA会長からは「本校には変革の先導者としての更なる発展を祈念する」との期待が、最後に生徒会長による「今後直面するだろう様々な試練や困難も乗り越え、その伝統と精神を次なる世代に引き継ぎます」との力強い挨拶がありました。校歌斉唱後、関口副委員長が閉式のことばを述べると、吹奏楽部の演奏とともに、校旗が退場し、記念式典を無事に終えることができました。緞帳が下げられ

今度は記念講演の準備を行いました。その間、体育館前方で吹奏楽部が、パフォーミングアーツの素晴らしい演奏を披露し、参加者を魅了しました。今年度も三年連続で東関東大会出場を目指していたのですが、コロナで大会が中止となり、定期演奏会も中止、学校説明会での生演奏も見合わせとなり、お客さんの前で演奏は久しぶりでした。演奏する側も、見る側もとても楽しんでる様子で印象的でした。

講演会は、本校OBでもあるビックカメラ前社長であり現取締役副会長の宮嶋宏幸氏による「ビックカメラ×アニメ」という演題の講演でした。とても興味深い演題をいただいていたので、始まる前から楽しみにしていた生徒も多かったです。宮嶋氏からは最後に「変化に対応するものだけが生き残れる」という在校生の心に響く言葉をいただきました。必ずや今後の



長塚潤成生徒会長



福島正明PTA会長



川村始子校長



宮嶋氏講演

人生の糧になると確信しています。今回の記念式典は、記念誌作成を含め、多くの先生方からご助言をいただきながら、二年前から少しずつ準備を進めてきました。全く想定していなかった感染症拡大に伴い、一時は実施そのものも危ぶまれましたが、実行委員を中心にチームとして一層団結し、今できる最善の形で実施ができたと自負しております。百二十年の伝統を誇る本校はコロナなど負けることなく、今後もますます発展していくことを確信しています。今後とも変わらぬ応援をよろしく願います。(記念式典委員長 寺田 義弘)

百二十周年記念事業

記念誌発行

今回、百二十周年記念誌を編集する上で、非常に責任を感じていた。というのも、これは本校の歴史の転換点に編まれるものとなったからだ。

表紙の副題に表現したように、明治時代創立の本校は、その後大正、昭和、平成と元号をまたぎ、ついに令和の世となる中でも更なるチャレンジ精神を持って、高次元での生徒育成、地域貢献、新たな学びの追究に邁進している。

旧制中学、高等学校、そして今年度開設した附属中学の三つの校章を裏表紙に並べることで、本校がたどった道、これから一歩を踏み出す新しい道を表してある。

具体的な現状としても、SSHに指定されたり、大学入試も改革され、さらにICT教育の本格導入へと、これから日本全体が舵を切らんとしているこのタイミングでの記念誌発行で、竜一の歴史の躰となりうる意義を持つだけに、強い使命感をもって取り組み、実に

多くの方々のご協力を仰ぎ、完成にこぎつけることができた。

紙面の都合上、支えていただいた方々については記念誌の編集後記をご覧いただければと思うが、これまで関わっていたいただいた先達の縦糸と、今まさに多方面に渡り支えていただいている方々の横糸とが、これほどきめ細かく編みこまれて鮮やかな歴史のページを紡ぎ続けられる学校は、そう多くないと思う。

改めて、編集に携わっていただいたり、応援いただいた皆様に感謝申し上げます。
(記念誌編集委員長 室津 彰信)



記念品製作

今回の記念品はクリスタルキーホルダーと、A4クリアファイルと、トートバッグです。キーホルダーには竜一の校章が奥行きのあるデザインで入っています。クリアファイルは在校生がデザインしたもの、7ポケットシヨルダートートには卒業生がデザインした、同窓会ホームページの創立百二十周年応援サイトでもお馴染みの、竜のロゴがついています。



トートバッグ



A4クリアファイル



クリスタルキーホルダー

記念事業報告

準備委員会の設置

平成29年10月に創立百二十周年記念事業校内準備委員会を設け、創立百二十周年記念に向けて本格的に動き出した。10年ぶりであるので、前回百十周年記念事業を経験している教職員は少なく、立ち上げに戸惑ったことを覚えていた。当時の鮭川光義校長と菊池紳一郎教頭(現水海道二高校長)が陣頭指揮をとり、平成29年11月11日(土)に創立百二十周年記念事業準備委員会を立ち上げた。ここで、式典については、式典のほか講演会、生徒アトラクションという流れが示された。また、記念誌については、今後10年ごとにまとめていけるような内容にする方向性が確認された。記念事業については、講堂の図面の保存や白幡会館の整備という声が上がっていた。これらはその後、張替晴男事務室長や宇佐美福美事務室長が県とやり取りをした結果、県費で保存・修繕することになり、記念事業には至らなかった。

第一回実行委員会開催

翌年の平成30年6月30日(土)に茨城県立竜ヶ崎第一高等学校創立百二十周年記念事業第一回実行委員会が開催された。この日からPTAの役員の方々にも参加していた。三者が一堂に会して、染谷信洋同窓会会長を中心とした新体制での会合が始まった。この会で、講演の候補者7名がリストアップされ、校内で検討した結果、宮嶋宏幸氏(高30回卒 株式会社ビツクカメラ代表取締役社長)に決定し依頼することになった。当時の羽成邦男校長も高30回卒であることもあり直接依頼していただき、宮嶋氏の快諾をいただいた。また、記念品についてもこの段階では、トートバッグ、キーホルダー、クリアファイルの3点という案が示されたが、祝賀会については、実施しない提案がなされた。

第二・三回実行委員会

その後第二回、第三回実行委員会の開催にあたっては、椎名健司教頭と佐藤真教頭に尽力いただいた。特に記念事業については、WiFi機器設置などいくつかの案も出され

たが、今後の県の事業や県費対応などの検討もあり、結論に至らなかった。学校で再検討した結果、これからの生徒にとつて有用なものになるとして、体育館の電動大型スクリーンとプロジェクターを提案し、委員会です承された。

令和二年度実行委員会

そして、令和2年となり、川村始子校長、太田垣淳一副校長、高野健二教頭、菊地耕教頭、野口範正事務室長という新しい体制で第四回、第五回、第六回の実行委員会を開催し、詳細を詰め確認作業を行った。ただし、第五回実行委員会は新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、書面での報告となった。また、これまでの委員会の運営にあたり、百十周年記念事業時に教頭職にあった倉持正男副委員長には多くのご助言を頂

いた。百二十周年を祝う式典となるように、教職員一同精一杯の準備をして当日を迎えた。特に、富谷廣紀教諭の渾身の作品である「映像で竜ヶ崎一高の歴史を振り返る」は見るものすべてをくぎ付けにするものであった。この感動や迫力を全生徒、同窓生、旧職員が同一会場でも共有出来なかったことがとても残念であった。

実行委員会の解散

令和2年11月28日(土)茨城県立竜ヶ崎第一高等学校創立百二十周年記念事業第七回実行委員会が開かれ、百二十周年記念事業の成功と決算の報告がなされ、委員会の規定により目的が達成されたので、この日実行委員会は解散した。

(全日制教頭 高野 健二)

創立百二十周年記念事業会計

収入総額 7,240,404 円
 支出総額 6,998,628 円
 差引残額 241,776 円 (次年度へ繰越)

(単位:円)

科目	予算額	決算額	比較		摘要
			増	減	
1 繰越金	5,192,214	5,180,294		11,920	110周年会計 5,180,294円
2 同窓会補助金	1,560,000	1,560,000			
3 PTA補助金	500,000	500,000			
4 雑収入	7,786	110		7,676	預金利息
合計	7,260,000	7,240,404		19,596	

科目	予算額	決算額	比較		摘要
			増	減	
1 事務費	315,000	116,902		198,098	
1 会議費	30,000	11,064		18,936	実行委員会用500mlペットボトル
2 消耗品費	65,000	53,926		11,074	実行委員長印、講師依頼手土産、寄贈品保管額、ハードディスク
3 印刷通信費	200,000	47,328		152,672	実行委員会通知発送切手、記念誌郵送料
4 旅費	20,000	4,584		15,416	記念講演講師依頼旅費
2 事業費	6,905,000	6,881,726		23,274	
1 記念誌発行費	1,650,000	1,848,880	198,880		記念誌
2 記念事業費	1,905,000	2,003,430	98,430		大型スクリーン、プロジェクター
3 記念品費	1,500,000	1,124,000		376,000	クリアファイル、トートバッグ、キーホルダー
4 式典費	1,850,000	1,905,416	55,416		記念講演料、茨城新聞特集号掲載、紅白幕・演題立て看板レンタル、式典看板、撮影機材リース他
3 予備費	40,000	0		40,000	
合計	7,260,000	6,998,628		261,372	

科目間の流用を認める
 上記のとおり報告いたします。
 令和2年11月28日

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校創立百二十周年記念事業実行委員会委員長 染谷 信洋

母校の思い出

挫折からの飛び立ち



高嶋 弘 14回
成嶋

58年ぶりに思いがけなく、同窓会事務局代表の倉持正男さんから「母校の思い出」の原稿執筆の依頼を受け、筆をとることになりました。

数十の石段をのぼると、校舎の正面玄関とその右側に図書館があり、校舎の北側には運動場があったように記憶しています。

横浜で生まれ、大空襲後、二歳の頃から小・中・高そして大学入学まで竜ヶ崎で過ごしました。小学校ではさほど勉強した記憶はなく、中学ではそれなりに成績が上位になり、竜一高に進むのは自然の成り行きでした。

入学後の実力テストで特にできたように思いませんが、その結果が張り出されると、何の間違いか私がトップになっていたのです。その後、特に数学と英語は好きになり、自分でどんどん先を学ぶようになりました。

井坂弘文先生には当時、放課後に数学の特別授業をして頂いたことが頭に浮かびます。

その後も好成绩を続け、2年生の夏休み後の実力テストで、2位にかなりの差をつけトップになったのです。これが成績トップの最後でした。その後、心身に何が起こったのか、特に反抗した訳ではないのですが、自然に学校から離れていきました。

学校を休むことが多くなり、テストだけ時折受けるという不埒なことをしていました。それなのに寛容な先生方は、見込み点を付けてくれ、2年生の終わりには「優等賞」を与えてくれたのです。それをクラスの仲間が「おめでとー」と家に届けてくれたことには今でも恥じ入っています。

受験勉強には情熱を失い、外からの力には殆ど反応しなくなり、担任の上野錦一先生には大変ご心配頂きながら、大学受験には当然失敗、予備校にも行かず自宅で過ごしていました。その間、両親は何も言わず静かに見守ってくれていました。ある時、ふっと

自分にできることは「数学」しかないと思い立ち、私学で数学科のある早大理工を受験し、入学しました。

恩師に恵まれ、大学3年時に「未解決の問題」に取り組み、大学院は恩師の勧めで東京教育大に進みました。その間、早大紛争、続いて教育大の筑波移転紛争でまともな授業が殆どなく、自由な時間が与えられ、これ幸いと考察を重ね、未解決問題に解決の糸口を与える新定理を見いだし、修士論文としました。大学院博士課程の途中で、東海大からの誘いがあり、研究教育の道を進むことになりました。

大学での仕事に就いてから数年して修士論文で示した新定理をさらに一般化した論文がアメリカのMITの教授に認められ、学術専門誌に採掲掲載され、MITの組合せ論特別セミナーでの講演の機会も与えられました。早大の恩師から、その論文を中心に博士の学位論文を作成し提出するように勧められました。

「未解決問題」に取り組み始め10年ほど経た1977年に、早大から理学博士(数学)の学位を授与されることになりました。

更にその主定理は一般化され、思いがけなく、25年ほど経て、ドイツの若い数学者が自身の理論を展開する本に

「成嶋の飾の公式」として取り上げられたのです。

2001年に入り、福岡宗像の東海大学福岡短大の学長をしばし務めたのち本校に戻り、今は名誉職にあります。

国の品位が問われる今、真の豊かさは、心身の自由に基づく、市民の日常生活・学問・芸術にあると思われれます。

最後に、長きにわたるご無沙汰を詫びると共に、竜一高の寛容な先生方はじめ皆様に、ここに深甚なるお礼と感謝の念を捧げたいと思います。

竜ヶ崎一高での小さな思い出

那花 隼(高14回)

校歌でも幾度かうたい、友と談笑しながら三年間登り下りしたあの高い石段。今でも残っているのだろうか。あれからもう六十年近い歳月が流れた。極楽トンボで漫然と時間を浪費した自分にもいくつかの思い出はある。たゞし正確ではない。切れ切れの不確かな中でも、比較的忘れないでいる思い出話でも致しましょう。毎年全校マラソンがありましたね。コースは忘れましたが、新利根川の堤防の上を延々と下った事は覚えてる。走ることの苦手な自

分には、あの日は大変気の重い一日となるはずでした。市街地は大勢の見物人が観ているので走り抜け、人家や人影の無い所ではひたすら歩いた。「コースの半分以上走れば残りは歩いて時間内にゴール出来るから」これはその日たまたま一緒に走ったり、歩いたりした或る先輩の悪知恵?でした。「トップでなければビリの方が愉快なのさ」これも先輩の言葉です。歩いている時には、ご自分の入学の頃の事や、各教科の先生方の話など様々な話をしてくれました。歩いている事が少し楽しくも感じていた。タイムリミット残り何分かで心臓破りのくの字の坂を登って行くと、先にゴールした大勢の生徒が、石段や坂の斜面に陣取って、冷やかしたり、エールを送ってくれる。ゴールすると拍手喝采をしてくれました。そうか、是を楽しみにしていたんだなと思った。先輩は笑いながら万歳をして、私を見た。私も思わず笑い返していた。「今日はありがとうございました。楽しかったです。」「うん、ジャーナ」手上げて別れました。唯々、これだけの思い出です。が、何故かいつ迄も心に残っています。

る。その後、先輩は都内の私立大に進学をしたと云う話を又聞きに聞いた。あの賢く、朗らかで機転のきく先輩、今も何処かの空の下で素敵な人生を歩まれているのでしよう。

遠い昔の小さな思い出である。追記・那花さんは現在、定慶という仏師名で京仏師として仏像彫刻にたずさわっています。

先生方との出会いとフォークダンス



高 24 回 弘 川北

高校二十四回卒業生は、今でも多くの人々の心に強烈な記憶として残る連合赤軍による浅間山荘事件や横井庄一さんの救出、千日デパートビル火災、沖縄返還などがあつた昭和四十七年に希望を胸に母校を卒業しました。

早生まれの私は高校に入つてようやく人生が少しずつ上向きに動き出しました。個性豊かな先生方との出会いがその動きに拍車をかけたと思えます。数学の鈴木武次先生の授

業は毎回楽しみでした。先生のお陰で「大学への数学」の難問奇問に挑戦し、数学に夢中になることが出来ました。英語の大野英二先生の独特な話し方、佐藤忠臣先生の生真面目な板書のお陰で英語は三年間大好きでした。また、三年間何かと気にかけていただいた学年主任の佐藤良至先生には感謝しています。

高校時代は一年で父を、三年で母を亡くした暗い記憶の中で、「人生をいかに生きるべきか」を模索した時期でも

ありました。当時気鋭の哲学者、森有正の著書との出会いがあり、その知的な文章に大いに惹かれました。就職してからですが、森有正の愛したパリに二度旅行しました。そして代表作「バビロンの流れのほとりにて」の文中に出てくる車窓からの眺めを追体験することが出来ました。倫理の長塚誠道先生から学んだサルトル、キルケゴールやパスカルなどの世界観にもいたく感激し、勉強も忘れて「世界の名著」を夜更けまで読み明

かした記憶もあります。この時期の多くの個人的な先生方との出会いが、私立高校と予備校で非常勤講師の仕事をしている現在でもなお役

立っています。

最後に運動会キャンプファイヤーを囲んでのフォークダンスの思い出です。若く人気だった数学の桜井(富永)由美枝先生や好意を寄せていた女子がオクラホマミキサーの曲と共に巡り、肩を寄せ合つて踊つたときのドキドキ感は今も忘れられない思い出です。

校訓は今もなお



高 24 回 優 柳井

今年も無事に誕生日が過ぎ白幡台を卒業してから四十九年が経過しました。「無事に」と書きましたが、今までお蔭様でという思いのほかに、今年に限つてはいわゆる新型コロナウイルスアウトブレイク感染症によるまあ感染せずという思いを込めて表現しました。不運にも感染してしまつた同窓生に對しましては、心から深くお見舞い申し上げます。

白幡台の想い出は毎年発行してくださる同窓会会報「白幡」を拝読するたびに同窓生の方々の貴重な想い出に感動し、あるいは共感するばかり

ですが、自分自身の想い出として特筆すべきものはただ一つです。二年生になるまでの十七年間私の人生は実に単調で自宅と幼稚園、小中学校、白幡台との往復だけでした。いよいよ二年の夏休みになり大学受験やその先の職業について真剣に考えることとなりました。今振り返つてみても実にのんきな高校生でした。

旧制龍中三十九回の大先輩(当時、都心で法律会計事務所を主宰)に相談した結果、都内大手予備校の夏期講習を受講するに及び、全国レベルの中の自分の位置を思い知らされたシヨックは今でも鮮明に覚えています。それから大

学入試までの一年半、学力アップのための必死の高校生生活が始まつたのでした。後日談になりますが私は恐れ多くも大先輩の法律会計事務所就職し、大先輩亡きあとも税理士として事務所を引き継ぎ、当然の如く私の事務所には、高三十六回の優秀な先輩が中心的存在の一人として長きにわたり貢献してくれているのです。

母校の想い出のつもりが母校の大先輩に大変お世話になつた想い出と、母校の後輩に現在もお世話になつてい

お話となつてしまいました。もちろん校訓の「誠実・剛健・高潔・協和」は遠い想い出ではなく今もなお日々心掛けている私のモットーなのです。

人生で最高の図書館



高 24 回 ゆう子 油原

竜ヶ崎一高卒業から48回目の秋が来ました。今さらながらに、当時お世話になつた先生方や同窓生や先輩方への感謝の思いを新たにしております。

入学当時は、まだ木造の校舎で、冬の朝は教室内でも零下のことがあり、女子の手洗いは全校で1か所でした。でも、そんなことが気にならな

いほど、クラスメートも授業内容も目新しいことに満ちていました。自転車で龍ヶ崎市塗戸町の自宅から半田、長峰、八代の田舎道を通う時には、木々や草花が美しく、眼福を味わっていました。

何より、独立して建っている図書館は、中学校とは違

がったような気がしました。当時は、図書館担当が中山先生でした。

図書館でのご縁から、中山先生方から休刊中の文芸クラブの機関誌『鉾脈』の編集を仰せつかり、発行させていた

3年間、帰宅しては読書の毎日、北杜夫さんやヘルマン・ヘッセやトーマス・マンを読みふけていました。読書の面で、あんなに充実した日々はありませんでした。

それから月日が流れ、大学を卒業し、文部事務官となつて、筑波、東京、埼玉、千葉、新潟、鹿児島への転勤を繰り返して、還暦を過ぎて職場が筑波になりました。

勤務先や在任地でいくつもの立派な図書館を見ましたが、私の脳裏では昔の竜一高のあの小さな図書館の建物が特別の輝きを放っています。

先生方も同窓生も先輩方も、石段も、木造の校舎も、体育館も校庭も、竜一高の3年間を支えてくれた全てに、心から御礼申し上げます。

懐かしい三年間



高 39 回 荻野 千香

月日が経つのは早いもので、高校を卒業してからです。三十年以上になります。竜一の野球部OBであった父が毎年夏になると県大会の結果に一喜一憂していたこと、また、親戚の多くが竜一に通っていたことから、私も高校は竜一に行くものだと思っていました。

そして、念願叶って入学した高校での三年間を振り返ってみると、皆仲が良く楽しかったことが思い出されます。特に私のクラスは男女関係なく皆仲良しで、吹奏楽部の定期演奏会に皆で行ったり、ことあるごとに誰かの家に集まったりして楽しく過ごしていました。文化祭の出し物としてクラスで映画を作ることになつて、お祭りの撮影をするために我が家が大勢集まって食事をしたことも懐かしい一コマとして心に残っており、今でも時々家族で話題に上がっています。また、楽しい思い出だけでなく、様々な

な面で皆から刺激を受けていたことも思い出されます。皆それぞれ部活に入っていて、一見のんびりしているように見えたが将来についても真剣に考え、勉強も頑張っていました。進路について相談したり勉強したりと、一緒に頑張れる友がいることは大きな励みになりました。きっと彼女は覚えていないでしょうが、私は一人の友達にとっても感謝しています。なかなかいい結果が出なくて悩んでいた私に「この学校も受けてみたら」と渡してくれた一枚の資料請求の葉書きのおかげで今の私があるのです。本当に感謝しています。大人になった今でも、久しぶりに同級生たちに会いそれぞれの立場で頑張っている様子を聞くといつてもいい刺激になります。来年の同窓会には私たちの学年が招待学年ということなので、大勢の懐かしい顔に出会いゆっくりお話しできることを今から楽しみにしています。

私は高校で教員をしていましたが、母校の後輩にあたる卓球部や書道部の活躍を見聞きすることがあり、とても頼もしく嬉しく思っています。また、PTA本部役員の方々ともお会いする機会があり、そ

の度に皆さんの母校愛、絆を強く感じ、伝統とはこのようにして受け継がれていくものだと思えています。

最後になりますが、これからも母校が益々発展していくことを願っています。

ここでは言えない話



高 39 回 栗山 武志

「まじか」。突然白幡同窓会の封筒が自宅に届き原稿用紙がまるで不幸の手紙のような。私の体は硬直し、以前役員の方から伺った会報の執筆の話思い出しました。

もともと頭が理数系だった私は、小学校から国語、特に漢字や文章を書くのが大の苦手です。ちなみに、高校3年間は、それぞれとても色濃い先生の指導の下、数学は得意科目でしたが。

「でも上手になりましたよねえ」。原稿執筆の事で長年いる社員に元気づけられました。

私は、同じ竜ヶ崎一高卒業の父親の会社を引き継いでいます。以前はメモメロだった

言葉も文章能力も徐々にとうか様になってきました。それでもまだまだ酷い文章しか書けませんが、何とか商売を続けながら私と同じ年の会社共々、少しずつでも成長を日々考えております。

「ここでは言えない」。書いてるうちに今ならかなり問題になったであろうことばかりが蘇ってきます。文化祭での○○お化け屋敷や、修学旅行での○○爆笑お部屋見回り、テスト返却時○○涙事件、持ち回りの自宅で○○会など。高校時代の思い出というところが多々ありますが、公の場では非常に書くことが難しい内容のものばかりです。皆さんもそうではないでしょうか?

「一言で言う」と。当時の言えない思い出ばかりが浮かぶという事は、裏を返せば「自由な学校」だったのでないかと思えます。でも、その自由の中には何か「歴史」や「伝統」が一人一人の心の中に染みついていて。地元で商売をしていると多くの「竜一」出身者に出会います。接していると、その心の中には何か崇高で自由な雰囲気を感じざるを得ません。

「感謝」。もし同窓会が開催されれば、お酒を飲みながら

仕事や家庭の愚痴、病氣自慢や健康自慢もし、是非「ここでは言えない」話に花を咲かせたいものです。昨今、数字ばかりを考えがちな私の心の中に、この執筆の機会を与えて頂いたことで、このような気持ちにさせて頂き誠に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今につながる三年間



高 39 回
根本 康志

私の高校生としての三年間を思い出すと、ここで胸を張って紹介できるようなものはほとんどありません。部活に青春を捧げたわけではなく、かといって学業に精一杯打ち込んだわけでもありません。そのような中でも、今改めて思い返すと懐かしい出来事がよみがえってきます。

まず第一に思い出すのが三年生の時。文化祭に向けて、クラス全員で映画を撮影しました。冒頭の場面、私が廊下を歩いていると何者かにロッカーに引き込まれ、出てきたときは悪者になっていたとい

う何とも微妙な役でした。学校やどこかの公園で撮影をしました。映画の内容は忘れてしまいました。みんなが過ぎてしまった時間は心に焼き付いています。あのビデオテープはまだ誰かが持っているのでしょうか。

次は二年生で行った英語のスピーチコンテストです。「根本は英語がペラペラだ」という友達の冗談から、英語が得意でもない私が代表に選ばれてしまったのです。自分の書いた日本語の原稿を英語の先生が訳してくれ、暗唱できるように繰り返し練習しました。テーマは「自然食」でした。賞にはかすりもしませんでした。しかし、全校生徒の前でも不思議と緊張せず、変な度胸があるんだなと自己満足をするのができました。

旧江戸崎町から約一時間をかけて、あの頃流行ったロードタイプの自転車で通学したのも懐かしく思い出されます。

高校での三年間は短かく平凡なものでしたが、今も交流している友人は多いです。また、同じ高校の出身だということ、話のきっかけになったり話題が広がったりすることもあります。そんなとき、

竜一の卒業生でよかつたなとつくづく思います。この会報を読んだ方が私に声をかけてくれ、さらに交流が広がったらうれしいです。

充実した三年間



高 54 回
猪股 公貴

私の竜ヶ崎一高での高校生生活を振り返ってみると、環境にも出会いにも恵まれた幸せな三年間だったと、今あらためて感じます。

私たち五十四回生は新校舎とともにスタートしました。誰も使用していない靴箱、真新しい教室、きれいなトイレに心躍ったことを覚えています。当時は何とも思いませんでしたが、新しい校舎とともに高校生活をスタートできたことは偶然であり、幸運であつたとつくづく思います。

三年生の時には、所属するソフトテニス部の活動場所であるテニスコートも新しくなりました。新コートで最初に誰がボールを打つかを争ったこともいい思い出です。文武ともに目立つことな

かつた私ですが、先生方には大変かわいがっていただいたと思います。昨年度まで学校長を務められた羽成邦男先生には二・三年時に担任をしていただき、先生からクラス代表に指名されて、代表としてクラスをまとめようとした経験は現在の仕事にも活きていると感じます。部活動では、小幡法男先生・斎藤哲朗先生・坂本俊一先生に高校時代から現在に至るまで大変お世話になっております。大変未熟な私でしたが一人の大人として接していただき、自ら考えることの大切さや人間としての魅力を教わり、自身の成長につながることができたと勝手に私は思っています。そして、特別な経験もさせていただきました。卒業式及び入学式の際に校旗を持って入退場する役目を、現竜ヶ崎一高教諭の横須賀威之君と一緒に務めたことです。どのような経緯で私が選ばれたのかは今でも疑問ですが、伝統ある竜ヶ崎一高で名誉ある役目を務めたことは私の誇りです。

青春の日々

永井 准哉 (高54回)

思い出を数多く残せるよう、目の前の生徒とこれから日々向き合っていきたいと思っています。

高校の3年間、新しい知識を学ぶことに喜びを覚え、一生涯の友とたくさん出会い、時間も忘れてボールを追いかけて続けた、自分の人生の骨格を作り上げたかけがえない毎日でした。と書きたいくらい、自分にとって高校生活というのはキラキラした青春のイメージでした。しかし、それはあくまでもイメージでしかなく、現実はその甘くないものではなかったようです。部活は早々に辞め、甘酸っぱい恋愛もなく、日々真つすぐ帰り、家でテレビを見るだけの羨びた生活。中学校の友達と久しぶりに会えば、聞かえてくるのは楽しそうな高校生活の話ばかり。ああ、自分も別の高校に行けばよかった、そう思うことも多々ありました。そんな代わり映えない高校生活を振り返り、唯一、鮮明に思い起こされるのは、高3の時の文化祭。1、2年の時は斜に構えて、「は

二十一年近く経った今でも鮮明によみがえる思い出がその他にも数多くあります。私は現在、教員として高等学校に勤務しています。そのような

しゃぐことはダサイ」くらい冷めてた自分が、友人に半ば無理やりに行行委員会に入れられて、スタッフとして文化祭に参加しました。自発的ではないとはいえ運営側になると、どうすれば文化祭が盛り上がるのか考えるようになっていき、気づけば夢中になっている自分がいました。楽しい時間は過ぎるのが早いもので、本当に一瞬で文化祭は終わってしまいました。文化祭後にこみ上げてきたのは圧倒的な充実感と、果てしない後悔。この時によく気付いたのです。生活が楽しいかどうかは置かれていた環境のせいではなく、自分自身の考え方や捉え方次第なのだ。このことにもっと早く気付いていれば、楽しい高校生活を送ることができたはずなのに。馬鹿野郎。いや、それすらも捉え方次第で、この時に気が付けてよかったことにしよう。

今、私は映画の宣伝というエンターテインメントを仕事にしています。一つの作品を公開までどう盛り上げるかを、チームで試行錯誤する日々。これは文化祭とほとんど同じ。どうやら私はずっと文化祭をやっているみたいです。

感謝



高 64 回 荒井 啓輔

「白幡」の原稿依頼を受けたのが8月末。今日は、締め切り2日前の9月29日である。高校時代からの提出物を期限ギリギリになってから取り掛かる癖は、大人になってもあまり変わらないらしい。高校時代を思い返してみると、浮かんできるのは教室ではなく、校舎と野球場の間にある小さな200mトラックのグラウンドや、プレハブのトレーニング室、そして、吐き気を催しながら走ったあの坂道である。陸上部に入るために竜一に入学したわけではなかったが、友人に誘われて入部してからは、部活をしながら学校に通うようになっていた。陸上部ではつらいことも数多く経験したが、共に目標に向かい努力する仲間がいることで乗り越えることができた。今の私があるのは間違いなくその経験のおかげである。また、顧問の栗山先生、内田先生からいただいた「未来とは今である」、「継続は力なり」の2つ

の言葉は今も私の心の支えとなっている。陸上部の活動に一生懸命取り組んだ反面、テストではひどい点を取り、先生方にはたくさん迷惑をおかけした。本当に申し訳ないと思っている。そのような状況でも志望校に合格できたのは3年間担任をしていただいた木内先生をはじめ、たくさんの先生方のご指導のおかげである。本当に感謝している。

現在私は、県内の県立高校で教員として働いている。昨年は短期間であったが、母校である竜一でも教員として働く機会をいただいた。そこには10年前と変わらず、文武両道を目指すたくさんの生徒たちがいた。陸上部の恩師をはじめとして在学中にお世話になった先生方と共に、母校で働くことができたことは何事にも代えがたい経験であり、幸せな時間であった。

締め切り直前のまともな文章で読んでいた方には本当に申し訳ないが、最後に竜ヶ崎一高の益々の発展と、同窓生の皆様のご活躍を祈念し、結びとする。

竜一OBの繋がり



高 64 回 大野 一樹

竜ヶ崎一高を卒業してから約10年、あの頃と同級生とは今でも一緒に遊んでいます。同じ卓球部に所属していたメンバーと計画していた旅行が、社会情勢を考慮した結果中止になり、残念がっているところです。(この文章を書いているのは2020年の9月です)

竜一は、OB同士の繋がりが非常に強い学校だと思っています。受験2日前に体調を崩した際に、竜一OBのお医者さんに助けていただいた日に、そのことを強烈に実感しました。

私は大学受験2日前に胃腸炎に罹ってしまいました。発熱や腹痛が非常に厳しく、そのままでは試験を受けることは大変難しい状況でした。大慌てで病院に駆け込んだ際に、診察して頂いた先生に、こう聞かれました。

「どこの高校だい？」

私は、「竜ヶ崎一高です」と答えました。そうすると、

先生は笑いながら「そうか、竜一か！僕も竜一出身なんだよ！わかった、できる限りのことをしてあげよう！」

と答えてくれました。

その後、先生が勧めてくれた点滴を受けると、私の体調は一気に良くなりました。一日休んで、ほぼ万全の体調まで復帰することができ、無事に私は試験を受け、第一志望の大学に合格することができました。

その後知ったことなのですが、その際に処方して頂いた点滴は、通常の患者には使わないような、強力な点滴だったそうです。

そのような、ある意味で非常手段とも言える手を使って頂いたおかげで、今の私がいまいます。

その時から私は、「竜ヶ崎一高という同じ学び舎で学んだ者同士の繋がりを大切にしていこう」と思いました。

最後に、この場を借りて、助けていただいたお医者さんに感謝を述べさせていただきます。I先生、助けていただき誠にありがとうございます。おかげさまで充実した大学生を送ることができました。就職活動の結果、この茨

城で働くことになりましたので、今後どうぞよろしくお願いたします。

母校と私の人生

挑戦への糧に



高 44 回
倉持 弘市

今、こうして原稿用紙に向かい、学生時代は近視に悩んでいた自分が最近はどう進んでいくかと感じるこの頃。もうすぐ高校卒業から三十年が過ぎようとしている。

どうしても学ランが着たくて選んだ志望校。朝寝坊な自分が必死に漕げば間に合う自転車通学。苦手なプールが無事志望動機。あまり公言はしなかったが親父も通った歴史と伝統ある学び舎に通いたかったのも事実。いざ受験。貼り出しによる合格発表。念願叶っての竜一高の学ランに袖を通しての通学。登校初日に集合時間を間違えて遅刻し、クラスの中で真っ先に名前を覚えられた前の座席の友。(彼

とはいまだに連絡をとつていない) クラス皆で作り上げた文化祭。野球部の県大会の応援。そして在学中二度の夏の甲子園出場によるバスでの応援弾丸ツアー。二十数年経つ今でも良き同級に恵まれたお陰で実に華やかな時間が過ごせたと感謝しております。

一方、自身を振り返ると「言い訳ばかりの三つの悔い」が残る。一高生だったと思う。まずは本分であるべき学業について。中学・高校時代は正直安全運転に徹する様な勉強への取り組みであった。漫然と日々の授業をただ受けるだけ。定期テストも決められた範囲だけ。全くもって受動的な、食欲さに欠ける姿勢は自ずと結果に表れる。今さらながら当時情熱をもって熱心にご指導いただいた先生方に変失礼な学習態度であったと猛省しきりである。二つ目は部活動に参加しなかった事である。幼少から地元の道場にて打ち込んでいたにもかかわらず、自分でも驚く程剣道への熱が冷めてしまい入学当初より熱心に声を掛けてくれた同級の勧誘を頑なに断り続けた。先日彼とも思い出話をする機会があり、「何故にあれ程剣道部への入部を拒み続け

たのかね」と再度尋ねられた。あの時期の自分は一本の道に進み続ける事への不安に駆られていたのかもしれない。三つ目は応援団に参加しなかった事である。三年の時、特に仲が良かった友に「俺、応援団に入るけど一緒にどう? 倉持は体格がいいから団旗持ちなんてどう?」と勧誘を受けた。そもそも応援団について無知であったこと、時間の束縛、炎天下での体力の心配から部活動同様お断りをしたが、後日彼の写る写真の数々に羨望したのを覚えている。

そんな「悔い」を引きずりながら最終的な進路決定期に家業を最良最短で継ぐことを考えていた私に、担任の川口浩己先生は他の道の可能性を示してくださった。初めて親元を離れての生活を伴う進学を選択。自ら挑戦する事に極端に怯えていた自分から奮起し、「後悔する位なら」と僅かでも興味が湧いた事には積極的に参加する前向きさが出てきた。変化への下地には高校時代の悔いが確実に存在する。反省をバネに人間関係、資格、体験等多くの得難い経験を積むことができ、内面的に大きく成長できる機会を与えてくださった恩師に感謝し

たい。

(藤代伊勢屋3代目店主)

竜一高と私



高 46 回
本多 康二郎

現在44歳の私は竜ヶ崎第一高校を卒業してから26年もの年月が過ぎ去った事となります。高校時代は取手から自転車45分かけて通い、途中でカナブンが口の中にはいつても大暴れしたり、田んぼの側道に落ちたり、車に後ろから轢かれたりと通学路だけでも多くの思い出を昨日の事のように思い出します。

竜ヶ崎第一高校に入学を決めたのは100年以上を誇る歴史から生み出される風格を中学3年生の学校見学で子供ながらも感じたからです。「あ、この学校に入学してみたい」と直感的に感じました。通学と石段は大変でしたが、3年間は部活に打ち込みバスケットボール部で多くの仲間と悔しい思いや楽しい経験をさせて頂きました。正直授業時間以外での先生方とのやり取りや仲間との時間の方が今

となつては貴重で人生まだ半ばですが、糧になったと感じています。生活もビジネスも全て人間関係が一番重要であると実感しています。

卒業後は中央大学の法学部国際企業関係法学科へ進学しました。2年次に休学してイギリスへ留学し、3年次に大卒を中退し、アジア生産性機構という機関へ3年ほど勤務し、アメリカへ留学し帰国後に母方の祖父が起業した会社のグループ会社へ半年ほど勤務し代表となり、その後市場調査を半年間インドで生活しながら行い、現在3社をインドで起業、1社をスリランカで起業し現在合計5社を経営しております。2020年のコロナ禍で更に1社を日本で起業致しました。ゼロから1を作るという事に非常に価値を感じています。

大学時代は若さゆえか偏差値で大学を決めてしまったという事もあり、大学での目標を見失い3カ月ほど家に引きこもった事もございました。父母にはかなりの心配をかけたと思いますが、父の「大学なんて何回でも入りなおせばよい」母の「どんな仕事でもよいから人の役に立てばいいんじゃない?」という言葉で

だいが救われ、また中学時代
に母方の祖父から頂いた「本
当に賢い人は他人を幸せにす
る」という言葉を思い起こし、
現在も私の行動指針になって
います。その当時は自分がど
うありたいかよりも他人にど
う思われたいかばかり気にし
ており、いい大学に入ってい
会社に入って周りから凄いな
と言われたい、思われたい
(笑)。そんな気持ちが強かつ
たように思います。

現在社会に出てみると既に
高度経済成長は終わり、終身
雇用制度も大手企業でさえ保
障できない時代です。現在高
校生の皆さんには是非「偏差
値が高い」「単にかっこいい」
からではなく、将来どんな仕
事で他人を幸せにしたいか、
自分自身がどういう人生を歩
みたいかを自問し人生の選択
をしていつて欲しいと思いま
す。今でも自分自身人間関係
に悩んだりビジネス上の問題
や壁にぶち当たったりしま
す。その時に自分が本当にや
りたいこと、大切にしたいも
のや、大切にしている言葉が
あれば、失敗や回り道をした
としても笑ってまた挑戦でき
る自分に戻れます。まだ見つ
からないという皆さんは是非
「他人を幸せにする人が賢い

人」という、戦後焼け野原の
状態から豊を並べて工場にし
プレスを踏み年商40億円の会
社を立ち上げた、戦争で高校
にも行けなかった祖父の言葉
を贈りたいと思います。私も
また人生半ば、高校時代学ん
だこと、尊敬や謙虚さ、部活
で勝てなかったあの悔しい思
いや、人間関係の大切さ、学
ぶことの大切さ、本を読むこ
との将来的な大切さを糧に人
生の階段を上り成長し、また
あの竜ヶ崎一高の石段を登り
に帰ってみたいと思います。
(起業家)

君たちは、大丈夫！



高 47 回
中 川 彩

竜一は、今も昔も大好き。
たぶんずっと、世界でいちば
ん好きな場所のひとつです。
校風がよかったし、出会った
人たちがよかったのだと思う。

高校に入ってから、しばらく
して、ふと気づいた。
あれ？ なんかここでは私、
自由に息がつけるな。なんか
心地よい風が通っている。

種々さまざまの草花が、のび
やかに咲き群れるイングリッ
シュガーデンのように。
あのころの竜一ってほんと
に、ちよつと独特な場所だつ
た。和やかで、のんびりした
空気。はじめて、思った。こ
うしてみんなが良識を持って
いれば、規則なんかいらな
いんだわ。

あそこでは生徒たちみんな
すぐ信頼されていたし、尊
重されている感じがした。何
か、そういう空気があった。
君たちは、大丈夫！ ってい
う、無言の信頼が。

「ほんとにそう思っていた
よ」って、ずーつとあとになつ
て、言ってくれた先生がいた。
「君たちは、大丈夫！ って。
みんないい生徒たちだった
よ」。

先生たちやクラスメイトから
受けてきたもの、思い起こせ
ば、優しい雨のイメージ。
日に日に土壌を潤すしずかな
雨のように、倦まずたゆまず
たえまなく豊かに注いで、い
つしか木々が緑濃く枝を広げ
てゆくように。

日々の授業のなかで、身を

もって教えてもらってきたも
の。それは、与えること。
惜しみなく注ぎつづけること。
常に自分にできる最高の授業
をしつづけること。

磨きつづけ、学びつづけ、た
えず省察しつづけること。
彼らの仕事の仕方、その仕事
に対するしずかなプライド
が、後年、講師をすすうえで
の、自分の基準となってきた。
竜一クオリティ。
私があそこでほんとうに学ん
だのは、勉強じゃない。
仕事への取り組み方なのです。

いま、先生方と話すとびっく
りするの、大して目立たな
かった私のことを、みんな、
そんなにもよく知っていてく
れたこと。そうしてみんな、
なんとというか、無条件に私を
肯定してくれていた。
つくづくと思うのです。
かつてこの世界のどこかに、
自分のことをこうして無条件
で受け入れてくれた人たちが
いるのだと、知ることが
どれだけ力になるか。

今私が何をしてるかとい
うと、平たく言うとフランスに
住んで映画を撮っています。
昔から、ものを書いてきた。

アイルランドとウェールズを
旅して幻視に見た物語群を、
上演するため劇団を創立。
その後、夢の中で見た、パリ
が舞台の物語の一シーンを、
映像で再現すべく渡仏。
現在は院に学びつつ、自分の
仕事の仕方を構築中です。

あのころ出会った人たちは、
今も変わらずにいてくれる。
凹んだときには支えてくれる。
あれから色々変わつたし、
これからも変わりつづけてゆ
くとしても。
私の心の中の竜一は、いまも
そういう場所なのです。
ひととき翼を休めて、パワー
をもらえる港のような。

(パリ第8大学院映画科在籍・フ
ランス翻訳・イラストレー
ター)



トピック①

持丸修一氏

信頼を育む指導論

出版



持丸修一氏(高19回)が『信じる力』4校すべてで甲子園出場』を竹書房から7月に出版されました。

すでに読まれた同窓生も多いと思いますが、ここに目次の章立てをご紹介します。

第1章 出会いに恵まれた72年の人生

第2章 木内幸男に挑み続けた地元・茨城での戦い

第3章 「信じる力」でつんだ4校目の甲子園

第4章 選手育成論「育てる」のではなく、「育つ」

第5章 充実した日々を送るための「人生訓」
持丸氏から「我が人生の出発点 竜一高」と題する原稿が届きましたので併せてご紹介します。

私は東京オリンピックの年、昭和39年に入学、そして、特に上手くもないのに何となく野球部に入部、3年次には想像もできなかった甲子園出場。一部員としての使命は承知していたと思うが、なぜそこに自分がいたのかは今もわかっていない、そんな甲子園出場であった。そして、この甲子園が何の目標もない自分の人生を一変させてくれたのである。

高校卒業後大学に進学、そして「野球部の手伝いをしてくれ」との恩師の勧めでなすがままに教職の資格を取得、竜ヶ崎一高に着任いたしました。その頃竜一には野球部長の蓮沼先生はじめ多くの恩師の先生がいらつしやいました。多くのことを教えていただいたり庇っていたり堪えませんでした。

ある時、「持丸君、君は野球部のコーチである前に学校の先生だよ。授業が大切だよ。知識なくして野球の指導はないよ。ウチはそんな学校なんだ」と言われました。この言葉は私の中で強烈に記憶に残っています。今でも後輩の野球部出身の先生たちにもこの言葉でアドバイスしてい

ます。野球部の監督である前に「先生」としての使命が大切なんだと実感しているからです。

平成2年。今度は監督として甲子園に出場させてもらいました。「みんなの甲子園」として学校、OB、地域一体となって大いに盛り上がりました。私が高校生の時の甲子園出場の時と同じ熱気や雰囲気でした。今の高校野球は学校の果たす役割も多様で、その良し悪しには言及できないもの、「本当は地域と一体となった甲子園がもう一度帰ってきたらよいのになあ」と思わずにはいられません。

さらに「本当の甲子園」とは何なんだろうとも考えるようになりました。単に甲子園に出場するのが目的ではなく、失敗に失敗を重ね一生懸命頑張った経験が後の人生に大きな意義を与えるものではないか、と思います。今まさに竜一野球部はこの真つ只中にあることでしょう。川村校長先生はじめ津脇監督、川井部長、部員の皆さん、更なる飛躍を期待しています。

最後に、今でもいろいろな木々に囲まれたピンク色の木造校舎、グラウンドに大きく伸びたポプラ、桜、杉の木、

時々顔を出すリスなど自然にも恵まれた学び舎を思い出します。素晴らしい先生方や生徒たちと共に過ごした日々は忘れられません。

そして、第19回卒業生の皆様はじめ白幡同窓会の皆様には、茨城を離れ千葉にいる私にまで熱いご声援をいただきありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

トピック②

野澤幸司氏

妄想国語辞典1・2

出版



コピーライターの野澤幸司氏(高49回)が昨年5月に

版した『妄想国語辞典』(扶桑社)はベストセラー入りするほどの人気があり、各メディアでも紹介されました。そして、今年の8月には、その第二弾が『妄想国語辞典2』として出版されました。

ここに掲載されている「ことば」をいくつかご紹介いたします。

「行けたら行きます」

意味…絶対に果たされない約束

例文…「10年後に迎えに行く」と、彼は私に言いました。

けれどもそれは、行けたら行きますなのでしょう。

「こだけの話」

意味…みんな知っていること。

例文…押すなよ！押すなよ！が「押してくれ」という意味なのはこだけの話である。

「中一のときの中3」

意味…絶対に敵わない存在

例文…中1のときの中3がいるからこそ、人は限界を超えられる。アスリートを見ているとそう感じる。

野澤氏からの同窓会の皆様にメッセージが寄せられましたのでご紹介いたします。



高 49 回
野澤 幸司

みなさん、たいへんご無沙汰しております。

高校在学時はバレー部に所属していました、野澤幸司と申します。

こんなところに偉そうに寄稿させてもらっています、白状すると、高校時代の記憶は部活以外あまりありません。

私と同世代、あるいは上の先輩方ならご存知かと思いますが、当時は「浪川」という、竜一の坂の下の信号を渡ったところで軽食や喫茶ができた家族経営のお店がありました。部活が終わるとここに行き、アイスを食べながら友人たちと他愛もない話をしていたことを思い出します。毎日が平和で、大きな不満もなかったと思いますが、私はクラスで特に目立つ方でもなく、少なくとも教室の真ん中にはいませんでした。

学生時代はどちらかという窓際族だったような気がします。教室の端っこから、斜めにクラスメイトたちを眺めていた日々。

そんな自分が大人になり、斜に構えることなくまっすぐ向き合おうと思えたのが、コピーライターという仕事でした。一言で言えば、世の中のあらゆる企業や商品の魅力、言葉によって世の中に届ける仕事です。

みなさんがみたことあるかも？という広告があるとしたら・・・タレントさんがトントン歌ってる「ピノキートン」や、女優さんがラムちゃんになつて出てくる「電気代にうる星やつら」などでしょうか。

そういった言葉やCMのストーリーをつくりながら、個人活動として始めた「妄想国語辞典」という企画が書籍となり、その後もいくつかの本を書かせてもらうことになりました。

「妄想国語辞典は「架空の日本語を妄想で開発する」という企画です。この本がきっかけで茨城新聞から取材を受け、なんの因果かこのような寄稿をさせていただいています。

コピーライターの仕事には、みんながなんとなく心の中を感じていることを、言葉で顕在化させるという側面があります。そのためには、世の中をちよつと引いたところ

から、そして色々な角度から見つめる「視点」が必要になります。

僕は竜一時代、教室の端っこからみなさんを見ていました、そのサイズ感が、「教室」から「世の中」に膨らんだ、という感じなのかもしれません。

もし高校時代、クラスの中にいたら、間違いなく今の仕事に出会えなかったし、こんな文章を書くこともなかったと思います。なので、教室の真ん中にいなかった(そこに行けなかった)当時の自分に、「いいぞ、そのままいいんだぞ」と伝えてやりたい。

竜一の同窓会にはこれまで行ったことがありますし、「行けたら行く」という感じだと思っています。

ちなみに先述の著書『妄想国語辞典』には以下の言葉が出てきます。「行けたら行きます」・・・【意味】絶対に果たされない約束

CMや書籍を通して、みなさんに、自分の書いた言葉が届けられるよう、これからも書き続けようと思います。※同窓会は、本当に都合が合えば行きたいです(笑)(博報堂 コピーライター)

トピック③

次は野球部の百二十周年

明治三十五年、西村初太郎教諭心得が赴任し、その指導と尽力により九月十五日校友会規則の改訂に際し、野球部が呱呱の声をあげた。(中略)

本校の創立百二十周年については本誌各ページで紹介している通りですが、学校創立二年目の明治三十五年(一九〇二)には早くも硬式野球部が創部されており、令和四年(二〇二二)には創部百二十周年を迎えます。そこで硬式野球部OB会(飯田三郎会長)では、これまでの野球部の軌跡を一冊にまとめた記念誌の刊行を企画し、現在、鋭意編集作業を進めています。



明治39年度 野球部員。中央列右から2人目が西村初太郎部長。ユニフォームのRマークは、まだ図案化されないシンプルなものであった

以上は『星霜百年白幡台』からの章をまたいでの引用ですが、編集中の記念誌には、これら明治から現在までの百二十年にわたる「野球部通史」が貴重な写真とともに収録されるほか、これまでの試合記録や、「茨城新聞」に掲載された膨大な記事も網羅。部員名簿や部員OB・OGから寄せられた回想文・エピソードも多数載る予定です。さらには、本校野球部の際立



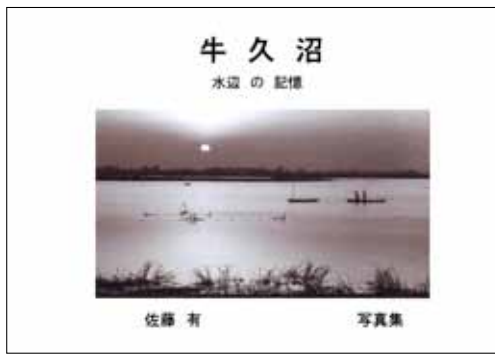
第 48 回全国高校野球東関東大会で優勝し、44 年ぶりの全国出場を決めた。本会報 15 ページで紹介している書籍『信じる力』の著者・持丸修一専大松戸高校野球部監督が本校野球部員として活躍した (『いはらき新聞』昭和 41 年 8 月 3 日付け)

特徴ともいえる、県内外の高校で野球部の監督や部長等として活躍するOBたちの座談会も行い、収録する計画もあります。

編集作業は、二〇一八年六月のOB会総会で発足した百二十年記念事業実行委員会(鎌倉克彦委員長)の委員十名(二十名が同年八月から毎月白幡会館に集まって進めてきたもので、いよいよ中盤に差し掛かってきました。

「百二十年という大きな節目です。資料や原稿等は割愛せず、できるだけたくさん載せていきたい。本校野球部にふさわしい内容充実した記念誌を目指しています」と飯田OB会会長は述べています。また、鎌倉委員長は「野球部のOB・OGはもちろん、多くの本校同窓生の皆さんにご賛同いただき、協賛や記念誌購入という形でご協力いただけますと幸いです」と話

佐藤有氏(高8回)による3つ目の写真集『牛久沼』水辺の記録』が発行されました。二年前に牛久市生涯学習センターで開催された展示会で大好評を博した写真の約110点をまとめあげた写真集がクラウドファンディングによってこのほど完成しました。



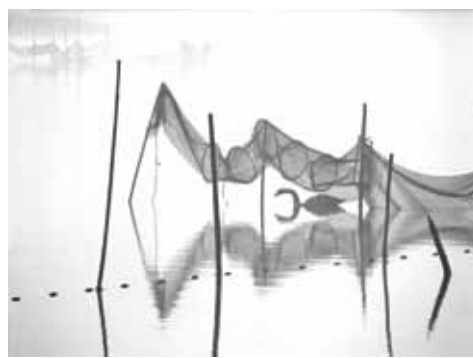
クラウドファンディングで写真集発行

トピック④

ています。

記念誌はA4判で800ページ前後、上製箱入りで来秋刊行予定。電子書籍版も考えています。

篠塚 文男(高28回)



牛久沼の自然風景とその周辺に暮らす人々の様子を鮮明に映し出す写真集には、佐藤氏の沼の美しい自然を残したいという強い思いが込められています。

半世紀以上にわたって牛久沼を撮り続けてきた佐藤氏は

廣瀬 和則(高29回) 創立百二十年おめでとうございます。卒業生の一人として大変嬉しく思うと同時にその重さを痛感いたします。現職の先生方におかれましては本当に御苦労様ございました。

さて私へと申しますと、高校生として3年間、その後母校にて教壇に立ち14年間大変



卓球スクール開業 竜一と卓球と私

トピック⑤

「浮田が広がる風景や幻想的にも見える置き網漁など、沼の美しさとともに写真の記録の重要性も伝えたい」と語っています。

お世話になりました。
 今高校時代を考えると自由な校風の中にも、厳しき、規律を守る教育など素晴らしい学校であったことが思い起こされます。
 私自身は卓球部に所属させて頂き、毎日が卓球一色であつた様に思います。あまり運動には自信の無かつた私にほんの少しだけ希望と勇気を与えてくれたのが卓球だつたと思います。
 一年次には先輩方の活躍でインターハイに出場、2年、3年では残念ながらそこまで行けませんでしたが常に茨城県の上位で活躍する事ができました。
 その後昭和60年に母校に赴任し再度竜一で卓球に向き合う機会を与えて頂きました。しかしあの時自分達で果たせなかつたインターハイ出場にはまたしても一步届かず「いつか必ず」の思いはさらに大きくなりました。

できたと思います。
 この様に母校竜一と私の間には卓球と言うスポーツを通じて切つても切れない人生の繋がりができたのだと思います。それは現在でも私の生き方の指針になっている様に感じます。
 現在はその母校竜一高白幡台のすぐ下にて旧バリミキ(メガネ屋さん)の建物をお借りして、CO CO STUDIOという卓球スクールを今年7月に開業致しました。「心」から取ったCOCOという言葉には私の今までの卓球人生が強く含まれています。
 母校竜一に対する「心」、母校竜一卓球部に対する「心」、現代の社会で希薄になつたのではないかと思われる「心」、その「心」を卓球を通してほんの少しだけでも伝えられれば嬉しく思います。
 今は2歳から70歳を越す多くの方々に助けて頂きながら「心」の通いあつた温かいコミュニティを作つていけたらと毎日頑張つております。

白幡同窓会ホームページ紹介

白幡同窓会では会員2万5千余名の皆様へ竜ヶ崎一高のいろいろな情報を同窓会の視点からお届けするためにホームページを公開しています。

<http://www.shirahata.sakura.ne.jp>

ホームページでは毎年1回12月に発行している白幡同窓会会報がご覧いただけます。「竜一ギャラリー」のコーナーでは竜ヶ崎一高所蔵の芸術作品を紹介する「竜一コレクション」を掲載しています。作品は、竜ヶ崎一高を卒業されて活躍された芸術家や関係のある芸術家について紹介をしています。「ニュース・トピックス」のコーナーでは同窓生の活躍や活動、竜ヶ崎一高に関するいろいろな情報を同窓会の視点からお届けしています。「リレー連載 世界に広げよう!同窓生の輪!」では卒業生の方々から高校生時代の思い出について寄稿を頂いております。ぜひ、皆様からの寄稿をお寄せください。

同窓会ホームページは平成28年に開設し、早くも4年が経過しました。これまでに15,000余りのアクセスを頂き、大変ありがとうございます。そこで、今年6月にHPのデザインを一新し、皆様により見やすいものを目指して改善を行いました。特に、スマートフォンでの閲覧を考慮しています。



今年には学校創立120周年を迎えました。これにあたり創設した「竜ヶ崎第一高等学校創立120周年 応援サイト」は本ホームページからご覧いただけます。明治33年創立当時の学校のあゆみもご紹介していますので、ぜひご覧ください。



このQRコードからホームページにアクセスしてください。

これからも白幡同窓会ホームページはネットならではの特色を生かしながら充実させてまいります。ぜひ御意見、御感想をいただければ幸いです。

ホームページ運営委員会代表

櫻井 篤美 (高29回)

進路状況

北海道大	1名
東北大	5名
名古屋大	2名
一橋大	2名
東京工業大	2名
筑波大	18名

☆難関十大学 二桁合格

○十一年連続国公立百名超え
令和最初の受験生となった七十二回生は、最終盤の二月にコロナ禍の不安とも戦いながらも、努力を続けてきました。特に、旧帝大・東工大・一橋大・神戸大のいわゆる難関十大学に現役で二桁合格した年はここ最近ありませんでした。私立大学においても早慶上理をはじめとして難関大学に多数合格しており、特に慶応大学は、ここ数年一、二名の合格だったところ、今回は現役で四名合格しているなど、素晴らしい結果を出した生徒が多数いました。さらに、再挑戦を目指し続けてきた過年度生の頑張りも特筆すべきもので、一橋大や筑波大、早稲田大、慶応大などへの合格を果たしています。過年度生で国公立大学に二十名も合格

した年は最近ありませんでした。

○最後のセンター試験受験

二年前くらいから強烈に安志向へと進んだ受験傾向ですが、昨年度も受験校決定の際には今までのノウハウ通りに進めていくことに不安が残るような状況でした。特にセンター試験が最後の年で、当時はまだ共通テストに記述問題が導入される予定で入試改革が進められていたので、浪人回避の傾向が全国的に強くなりました。しかし、昨年度もそうでしたが、そこは百二十年の伝統を引き継ぐ竜一生。そこまで志望校を下げることなく、自分の目指している大学の合格へ向けてひた走っていました。その諦めない信念が、近年ついで見なかったような好結果を出した原動力となったのだと思います。

また、再挑戦に燃え浪人の道を選んだ約四十名の生徒が現在も日々努力を重ねています。ぜひ最後まで自分の力を信じて夢を実現させてもらいたいと期待しています。

○本校での取り組み

本校独自の進路指導プロダ

ラム、通称「Rプログラム」にそった丁寧な指導をベースに、生徒の実態に合わせ各学年において様々な工夫をしながら支援を続けていますが、今年度はコロナ禍の影響でプログラム通りに進められない場面が多々ありました。その中でも教員・生徒それぞれが目の前のやれることから取り組んでいき、ICTを活用した授業形態への試行錯誤を今も続けながら着実に成長を重ねています。

筑波大入試研究会も、感染防止の対策を取りつつ、夏に

行われる「入試問題研究会」や「冊子」の発行、月に一回のミニ集会等も定期的に慎重に実施し、受験に顔を向けるタイムリングが取りにくかった生徒たちのモチベーション向上のきっかけ作りの一端として機能できました。

○竜一新時代の第一歩

先日実施された百二十周年記念式典を経て伝統の深さを感じつつ、一方で、これまで準備は進めていた中で、コロナ禍によって一気に導入へと向かったICT活用。令和三

年度大学入試から共通テストに変わり、また、四月から附属中学校が設置され、新しい風が吹き込んでいます。竜一は、引き継ぐべき魂はそのままに、今後大きく様変わりしていきます。

これまでも大きな変革のあった時代の節目は多くあったと思いますが、竜一はその都度、新しいものを取り入れつつも竜一らしさを守りつつ脱皮を繰り返してきました。我々もその精神をしっかりと引き継いでいこうと思います。

室津 彰信 (高48回)

令和2年3月 進路状況一覧

◆国立大学合格者数

大学名	現役	過年	合計
北海道大	1		1
北秋田大	1	1	2
東北大	5		5
東山形大	2		2
福島大	1		1
茨城大	31	7	38
筑波大	16	2	18
宇都宮大		1	1
群馬大	1		1
埼玉大	2	2	4
千葉大	4	2	6
電通大	1	1	2
東京外大	1		1
東京海上大	1		1
東京学芸大	1		1
東京工農大	2		2
東京一橋大	1		1
横浜国立大	1	1	2
山梨大	1		1
信州大	2	1	3
静岡大	1		1
名古屋大	2		2
広島大	1		1
長崎大	1		1
琉球大	1		1
合計	82	18	100

◆公立大学合格者数

大学名	現役	過年	合計
秋田公立美術大	1		1
宮城大	1		1
茨城県立医療大	7		7
高崎経済大	1		1
埼玉立大	1		1
千葉県立保健医療大	1		1
東京都立大	2		2
横浜市立大		1	1
都立大	1		1
大月短大	1		1
高知科大		1	1
合計	16	2	18

◆主要私立大学合格者数

大学名	現役	過年	合計
早稲田大	14	5	19
慶応大	4	1	5
上智大	1	1	2
東大	14	7	21
京大	7	5	12
明大	13	10	23
青山大	1	5	6
立教大	9	6	15
中央大	11	14	25
法政大	10	8	18
日本文学大	25	12	37
東洋大	20	3	23
駒澤大	9	7	16
専修大	15	6	21
東京電機大	20	6	26
千葉工業大	20	5	25
京大	19	3	22
文京教大	15	9	24
芝浦工大	11	5	16
共立女子大	11		11
東海大	9	5	14
獨協大	8	10	18
成蹊大	7	1	8
順天堂大	7		7
帝京大	7	1	8
国士館大	6		6
大東文化大	6		6
明治大	5	2	7
日本文学大	3	2	5
北里大	3		3
近畿大	3		3
國學院大	2	4	6
東京女子大	2		2
武蔵大	1	1	2
その他	167	45	212
合計	485	189	674

◆大学校合格者数

大学校名	現役	過年	合計
国立看護大学校	1		1
防衛医大(看護)	1		1
合計	2		2

竜ヶ崎第一高等学校附属中学校開校

4月7日(火)、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う学校の臨時休業の中、校長の指導の下、高等学校と附属中学校合同の入学式が挙行された。倍率4・95倍という県立中学校・中等教育学校8校中最も高い倍率の入学者選抜をくぐり抜け入学した男女各20名、計40名の新入生は、少し緊張した面持ちで式に臨んでいた。



オンライン授業
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入学式翌日から6月1日まで臨時休校となった。それに伴い、本校では、4月下旬に生徒40名にPC端末(Chromebook)を配付し、それを活用したオンライン授業を開始した。国語、社会、数学、理科、英語の5教科はもちろん、音楽、体育などの技能を伴う教科の授業も工夫をしながらオンラインで学習を進めた。



通常登校
6月8日(月)より、本格的に学校が再開した。竜ヶ崎市駅から附属中学生専用の直通バスも開通し、常磐線を利用して登校する生徒の交通の利便性が大幅に向上した。



第1期生は学習に対する興味・関心が高く、学習課題に黙々と取り組んだり、理科の授業では、ルーペを使って植物を観察したりするなど、どの授業にも意欲的に取り組んでいる。



ICT教育の推進
前述のとおり、本校生徒には、県教育委員会から1人1台のPC端末が貸与されている。生徒は、そのPC端末を自分専用のものとして、3年間活用することができると、授業では、プレゼンター



シヨンの作成やチャット機能で意見交換したり、家庭では、宿題や自主学習に活用したりと日々の学習の必須アイテムとして、積極的に活用している。



令和2年度開校創立中学校5校連携行事

7月10日(金)、県内附属中学校5校が連携し、オンラインによる「未来の自分発見講座」を行った。「自分の夢の実現に向け、これからの自分に『必要な力』というテーマで、各校で話し合い、考えをまとめた。さらに、その考



えをオンラインで他校に向けてプレゼンテーションを行い、互いに意見を交流した。5校の生徒たちは互いの高い志に大いに刺激を受けていた。

複数担任制授業

附属中学校の国語、社会、数学、理科、英語の授業では、複数の教員により指導を行っており、適宜、T・Tや



少人数授業を行っている。特に英語では、2名の教科担当職員のほか、毎週月曜日にALT(外国人指導助手)との英語の授業があり、アクティビティをしながら楽しく英会話を学んでいる。T・Tで実施しているため、ALTを含め英語の教員が3人!という日でもあり、生徒たちは、英語でのコミュニケーション力を飛躍的に向上させている。



学校行事

本校では、学校行事を高等学校と合同で実施している。新型コロナウイルス感染症防止のため、白龍祭は残念ながら中止となったが、9月の





飛龍祭は、高校1年生の部に交じって参加することができた。高校生に温かく受け入れられ、クラスパフォーマンスの発表では、高校生たちの拍手、手拍子の中、楽しくダンスを発表することができた。

竜ヶ崎第一高等学校が創立百二十周年を迎える記念すべき年に開校した竜ヶ崎第一高等学校附属中学校では、生徒一人一人を大切にしながら、生徒の自己実現に向けて、職員一丸となって、全力で取り組んでいきたい。さらに、これまでの歴史と伝統を大切にしながら、変化の激しいこれからの時代に新たな歴史を築くべく、生徒一人一人が自己の可能性に挑戦し、新しい時代が求めるリーダーを目指す教育活動を展開していきたい。

(附属中教頭 菊地 耕)



部活動状況

射撃部

新型コロナウイルス感染症防止のため、関東大会と全国高校選手権が中止となった。対外試合が実施されない中でも生徒たちは日々練習に励み、10月27日(火)に実施された県大会の結果、5名が第18回関東高等学校ライフル射撃競技選抜大会(令和2年11月21日 神奈川県立伊勢原射撃場)への出場権を獲得した。本大会の上位者には全国選抜大会への出場権が与えられるので、選手たちの活躍を期待したい。



部活動の主な成績

(令和2年4月~10月)

最後になりますが、射撃部がこのように活動できるのは同窓会の皆様のご支援の賜物です。今後ともよろしくお願ひ致します。
顧問 小野 雅央(高55回)

柔道部

女子400m……岩澤7位
女子走高跳……西原6位
女子4×100mR……6位

◎県総体代替大会……中止
◎県南新人大会
個人男子 66kg級
……福田・松本3位
個人男子 90kg級
……田村3位
個人女子……藤枝3位

◎県南新人大会
女子個人中量級……藤枝2位

運動部

◎第102回茨城県大会

(代替大会)……ベスト16

◎秋季県大会……出場

陸上競技部

◎茨城県高校夏季大会

男子三段跳……高野2位

女子やり投……植田4位

◎茨城県高校新人大会

男子400M……中村4位

男子110mH……宮澤4位

男子4×100mR……8位

男子4×400mR……4位

射撃部

☆関東選抜大会

男子個人……田中・中野出場

女子個人

……小野田・羽田・高橋出場

男子ソフトテニス部

◎県南夏季選手権

個人……白井・加固ペア3位

◎県南新人大会

個人……白井・加固ペア3位

団体……3位

女子ソフトテニス部

◎ 県南夏季選手権

個人…酒井・大吉ペア 3 位

◎ 県新人大会

個人 酒井・幸坂ペア

……ベスト 8

男子バレーボール部

◎ 県民総体 (代替大会) ……出場

◎ 全日本選手権県南予選 ……出場

サッカー部

◎ 県総体県南大会 (代替大会) ……出場

……

◎ 選手権 ……3 回戦進出

軟式野球部

◎ 秋季県大会 ……初戦敗退

弓道部

◎ 県新人大会

男子団体 ……出場

女子団体 ……出場

◎ 新人大会県南 B 地区

女子団体 ……2 位

女子個人 ……花崎伊織優勝

剣道部

◎ 秋季県南大会

男子団体 ……出場

女子団体 ……出場

硬式テニス部

◎ 茨城県少年少女テニス大会

男子個人 ……出場

◎ 県新人大会

男子個人 ……出場

卓球部

◎ 茨城県南地区高等学校選手権大会

権大会

女子団体 ……3 位

◎ 全日本卓球選手権大会ジュニアの部県南地区高校予選会

女子個人 ……5 位

ハンドボール部

◎ 県南ジュニア大会 ……出場

バドミントン部

◎ 県秋季大会

男女個人 ……出場

◎ 新人大会県南地区予選会

女子学校対抗 ……準優勝

◎ 新人県大会

男子学校対抗 ……出場

女子学校対抗 ……出場

男子ダブルス ……出場

男子シングルス ……出場

女子ダブルス ……出場

バスケットボール部

◎ 選手権県南予選 (総体代替大会)

男子 ……県代表決定戦進出

女子 ……県代表決定戦進出

文化部

吹奏楽部

◎ 管楽台奏コンテスト ……優秀賞

書道部

☆ 全国高等学校総文祭高知大会

県代表参加・出品 ……安田

☆ 高校生国際美術展

名誉会長賞 ……増子

奨励賞 ……江波、手塚、宮本

山家、高堀、鏡

☆ 国際高校生選抜書展

入選 ……江波、手塚、安田

◎ 県総文祭

入選 ……宮本、片見、有田

高堀、清水、鏡

山家

☆ 全国学生比叡山競書大会

内閣総理大臣賞 ……宮本

比叡山書道連盟賞 ……片見

特賞 ……増子、清水

☆ 比田井天来・小琴顕彰佐久

全国臨書展

比田井天来賞 ……増子

佐久市教育長賞 ……高野

佐久市書道連盟賞 ……清水

近代美術館賞 ……手塚

英語部

◎ 国際教育スピーチコンテスト ……参加

文芸部

◎ 県高等学校文芸部中央大会 ……出品

美術部

◎ 百二十周年記念品の図案制作

◎ 読書感想画コンクール ……出品

茶道部

◎ 毎週木曜日、外部指導者の下、お手前の稽古

サイエンス部

◎ 各種科学コンテスト ……参加

◎ 科学の甲子園 ……参加

◎ おもしろ実験フェス ……参加

……オンライン開催

軽音楽部

◎ 高校・中学校軽音楽系クラブ

コンテスト We are Sneaker

Ages 関東 ……動画参加

ケータイ安全教室

7月31日(金)に株式会社NTTドコモより講師をお招きし、定時制の全生徒を対象に「ケータイ安全教室」を実施しました。コロナ禍の影響で、直前まで講師の方が来校できるかどうか危ぶまれましたが、健康管理チェックリストでの体調確認や、会場においてもソーシャルディスタンスや換気、消毒の徹底など安全対策をしっかりと行ったことで、無事に講演を拝聴することができました。

定時制の生徒の多くは、常にスマホ等を使用しており依存度が大変高い状況にあります。しかし、そのほとんどの者がスマホ使用に関しての「危機管理」について、きちんと教えてもらったことがないとのことでした。普段は便利で楽しいものですが、一つ使い方を間違えると危険な事件に巻



き込まれる可能性もあります。講演では、「ケータイを使い慣れてきた頃のケータイの安心・安全な使い方、使う上でのルールやマナー、ネットコミュニケーションや個人情報「の漏洩」など、被害者として加害者、それぞれの観点で具体的な事例を動画や画像を交えながら紹介してもらいました。生徒からは、「実際にあった具体例や映像をもとに、分かりやすく教えてもらった。」「少し使い方が甘くなっていたので、意識の改善に役立った。」「自分がゲーム依存症だと気づくことができた。」などの感想が多く寄せられ、生徒達にとって大変有意義な時間となりました。

同窓会会員名簿の発行

令和2年度版「白幡同窓会会員名簿」が発行されました。名簿の発行にあたり、同窓生並びに旧職員の皆様にはご理解とご協力を賜りましたこと心から感謝申し上げます。

今回で6回目となる名簿にはこれまで掲載していなかった歴代校長と同窓会会長を掲載しました。学校と同窓会により深い結びつきを実感していただけるものと思います。

同窓会名簿の扱いには個人情報保護の観点により、細心の注意を払ってまいります。なお、住所変更等の情報は、同窓会事務局までお寄せください。また、お問い合わせは、同窓会事務局までお寄せください。



(2020年発行)

この同窓会名簿が、母校への郷愁を誘い、会員相互の架け橋となる一助となれば幸いです。

第五回旧職員会の案内

第四回竜一高旧職員会総会において、次回の旧職員会は

令和三年に開催することになりましたことをあらためてお知らせします。

開催日時は、令和三年十一月二十日(土)午後三時を予定しています。

これまでと同様に、講演会と総会並びに懇親会を実施する予定です。

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、中止になる場合がありますのであらかじめご了承ください。

なお、開催の有無については役員会を開き判断します。開催の場合は、案内の往復葉書でお知らせいたします。

中止の場合は、学校HP及び同窓会HPでお知らせする予定です。

寄付金に感謝

次の方から白幡同窓会に寄付がありました。心から感謝申し上げます。

- ・ 中43回卒業 故・椎名克哉様のご家族様
- ・ 高21回卒業 石嶋昭男様

※令和元年10月1日から令和2年9月末日までの寄付です。

編集後記

コロナ禍の中、会報第32号の編集作業が例年通り滞りなく終了しました。これもひとえに原稿執筆者の方々のご協力の賜物と編集委員一同心から深く感謝申し上げます。

今年度は同窓会総会が中止になるばかりでなく、これまで行ってきた同窓会活動もほとんど実施できない状況だったため、会報の「同窓会便り」のコーナーには掲載する記事がなく、とても残念でした。その反面、学校は百二十周年記念行事を開催し、附属中学校の開校とともに新しい歴史を刻む船出をしました。

また、紙面では、これまでよりも多く同窓生がその道で独自に活躍している姿を紹介することができました。今回も引き続き「協礼金」のご支援をいただいた方々には心から感謝申し上げます。竜ヶ崎一高の伝統は同窓生の皆様のご理解とご協力に支えられています。

今後とも竜ヶ崎一高及び同窓会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

会報編集委員

- 木野内昭治 (高13回)
- 服部 俊夫 (高25回)
- 倉持 正男 (高27回)
- 篠塚 文男 (高28回)
- 川口 浩己 (高29回)
- 有川 保 (高33回)
- 霜村 裕通 (高33回)
- 磯山 佳美 (高34回)